

第19回「社会・意識調査データベース (SORD)」 ワークショップの開催

The 19th Workshop of Social and Opinion Research Database Project (SORD)

社会・意識調査データベースプロジェクト 大國 充彦

第19回「社会・意識調査データベース (SORD)」ワークショップを2006年6月16日(金)17時30分～21時、本学C館4階会議室において開催した。SORDでは、現在、社会・意識調査に関するデータセット情報の収録・公開を行う一方、北海道という地域に根ざした地域研究や、地域社会学の構造分析に関するデータアーカイブとして展開し、社会調査センターに発展していくための準備作業をすすめている。

今年度のワークショップは、東京大学・福武グループの後継者として、構造分析と呼ばれる大規模地域調査を20年間にわたって主導されてきた、東京大学名誉教授・似田貝香門先生をお招きした。神戸市、福山市、東京都などで大規模な研究チームを組織してきた調査成果を踏まえ、構造分析の成果についてお話いただいた。SORDでは、似田貝先生から調査研究資料の提供を受けており、今後、二次分析可能な資料として公開することも計画している。

先生は、長年の研究生活を通じて、「構造」と「主体」の関わり方を、「構造」というよりも、「主体」の立ち上がり方に焦点を当てて把握しようと努めてこられた。講演では、この視点が住民運動調査を通じて確立されてきたこと、さらにはイシューに関わった主体像を捉える視点に繋がったこと、そして阪神淡路大震災での出会いを通じて「受動的主体」という主体像が見えてきたことなどを、順を追って丁寧に説明して下さった。そこからは現場との関わりを大切にしながら、常に自問しつつ研究生活を送ってこられた姿勢が垣間見られた。また、当時「構造分析」呼ばれる手法を用いていたいくつかの調査グループの雰囲気なども紹介され、著書を読むだけではなかなか見えてこない貴重な情報も提供して頂いた。

ご自身の歩みをふまえた、学問における問題意識の重要性と、実証研究が取り組むべき未完の課題についての指摘は、我々の現在の取り組みにとってきわめて示唆に富むものであった。

なお、ワークショップのプログラムは以下のとおりである。

(プログラム)

17:30～17:45 趣旨説明

西城戸 誠 (法政大学人間環境学部)

17:45～20:30 「構造分析」の調査を振り返って——〈主体を介しての構造分析〉をめざして——

似田貝香門 (東京大学名誉教授)

20:30～21:00 質疑応答